会　議　録

名　　称		酒田市子ども・子育て会議（令和８年度第１回）
日時・場所		令和８年８月６日（木曜）午前 10 時～11 時 酒田市役所第１委員会室
委員	出席 （15 名）	池田浩委員、茂木正史委員、石井哲司委員、高橋麻耶委員、 梅津満希子委員、長澤信樹委員、佐藤多紀子委員、遠田良子委員、 海藤陽子委員、山本貴委員、大滝晋介委員、白畑真由美委員、 佐藤裕委員、森楓委員、石塚春彩委員
	欠席 （５名）	尾形有希子委員、山口昇子委員、齋藤学委員、高橋奈津枝委員、山崎侑斗委員
事務局		健康福祉部長、保育こども園課長、健康課長、教育委員会学校教育課 課長補佐、 こども未来課長　ほか

～　１　開　会　～

〇こども未来課 門脇課長補佐

これより令和８年度第１回酒田市子ども・子育て会議を開会する。はじめに、健康福祉部長よりごあいさつを申し上げる。

～　２　健康福祉部長あいさつ　～

〇健康福祉部長

本会議は、豊かな子育て環境と子どもの幸せの実現に向けて、こども計画の進捗状況の点検評価や保育施設の利用定員の設定などについて、委員の皆様からご審議、ご助言をいただいている。

本市の現状としては、令和７年国勢調査の速報集計によると、令和７年 10 月１日現在の総人口は、92,122 人で、令和２年国勢調査と比較し、8,151 人の減少となった。

また、６月に厚生労働省より公表された令和７年の人口動態統計によると、令和７年に生まれた子ども（出生数）は 67 万 1,236 人であり、10 年連続で減少し、過去最少となっている。本市の昨年１年間（１月から１２月まで）の出生数は３６７人で、前年より２人減少とほぼ横ばいとなったが、今年のこれまでの状況も踏まえると、少子化の傾向は大きく変わっていないと捉えている。

こういった社会構造や環境の様々な変化が起きているなか、こども・子育て政策は、これらを踏まえた複合的な課題への対応が求められている。本市としては、令和７年３月に策定したこども計画に基づき、こども施策に取り組んでいるところであり、計画の初年度であった令和７年度においてもさまざまな取り組みを進めてきた。

本日の会議では、こども計画（令和７年度こども・子育て支援施策の実施状況）の点検・評価についてなど２件について協議いただく。委員の皆さまからは、ぜひ率直なご意見をお聞かせいただくようお願いする。

〇こども未来課 門脇課長補佐
（配布資料について確認）

～　３．自己紹介、会長、副会長の選出　～

〇こども未来課 門脇課長補佐
新たな委員で開催する第１回目の会議でもあり、皆様から自己紹介をいただきたい。「出欠席名簿」順に、所属・お名前など一言ずつお願いする。

（名簿順に自己紹介）

〇こども未来課 門脇課長補佐
酒田市子ども・子育て会議条例第６条第１項において「子ども・子育て会議に会長及び副会長各１人を置き、委員の互選によりこれを決める」こととしている。
つきましては、会長及び副会長をご選出いただきたいと思うが、どなたか推薦はあるか。

（推薦の声なし）

推薦がなければ、事務局案を提案させていただくが、よろしいか。

（異議なし）

事務局案としては、前任期中に会長を務めていただいた東北公益文科大学の白畑真由美委員に会長を、同じく前任期中に副会長を務めていただいた酒田市小学校長会の海藤陽子委員に副会長をお願いしたいと思う。賛成の方は挙手をお願いする。

（挙手多数）

〇こども未来課 門脇課長補佐
それでは会長を白畑真由美委員に、副会長を海藤陽子委員にお願いする。お二方からあらためてご挨拶を頂きたい。

〇白畑真由美会長
これまでの経験と様々な知識をもとに、皆様のご意見を十分に反映できるような会議運営を進めてまいりたい。ご協力をお願いする。

〇海藤副会長
　酒田市のこども・子育て支援のために私の立場でできることを一生懸命やってまいりたい。よろしくお願いする。

〇こども未来課 門脇課長補佐
　子ども・子育て会議条例第６条第２項において、「会長は、会議の議長となる」としており、白畑会長から議長席に移動していただきたい。

～　４.協議　～

〇白畑真由美会長
　（１）こども計画（令和７年度こども・子育て支援施策の実施状況）の点検・評価について、事務局から説明をお願いする。

〇こども未来課長
　（資料１－１に沿って説明）

〇白畑真由美会長
　こども計画の点検、評価方法について事務局より提案があった。意見、質問などがあればお聞きしたいと思う。

　（質問、意見なし）

〇白畑真由美会長
　それでは、こども計画の点検、評価方法について事務局案を承認することに賛成の方は挙手をお願いする。

　（挙手多数）

〇白畑真由美会長
　それでは、引き続き事務局から説明をお願いする。

〇こども未来課長
　（資料１－２～４に沿って説明）

〇白畑真由美会長
　酒田市こども計画令和７年度実施状況について説明があった。
　意見、質問などがあればお聞きしたいと思う。

〇茂木正史委員
　施策の方向性「次代を担う若者を支援する環境づくり」に関連して、「若者の移住・定住の促進」の実施状況で、移住ポータルサイトのＰＶ数が８万を超えているとの記載があり、様々努力をしている結果かと思う。酒田市ホームページにバナーリンクがあることは承知しているが、その他の取組みがわかれば伺いたい。

〇健康福祉部長
　本日、移住ポータルサイトの取組内容に関して詳細を把握している者が出席しておらず申し訳ない。酒田市ホームページのほか、ＳＮＳの活用や相談会等のイベント開催時の周知等に取り組んでいると承知している。

〇茂木正史委員
　もう一点、実施状況の詳細 No.157 に関連して伺う。光ケ丘公園の遊具の使用制限が拡大している。制限がかかっている遊具は立ち入りできないようテープが張ってあるが、虫が巣を作るなど危険に感じる部分もある。こどもの安全の観点からそういった部分も点検等で対応を考えていただきたい。また、入札不調により遊具改修工事を先送りしているとあるが、こどもたちが元気いっぱい遊べる環境を少しでも早く整備していただければと思う。

〇健康福祉部長
　光ケ丘公園の遊具に関しては、ご心配をおかけしている。担当部署の方でもできるだけ早く進めるべく取り組んでいるところなのでご理解を頂きたい。

〇梅津満希子委員
　施策の方向性「地域で子育てを支援する環境づくり」に関連して、学童保育所の待機児童など課題が残るとの記載があった。がくほれんとしても、日頃から保育こども園課とは様々話し合いをしながら一緒に進めているところであるが数点お尋ねする。参考数値をみると、総合計画の目標値として令和９年度に２人を目指すこととなっているが、その点について伺いたい。また、実施状況の詳細 No.223 において、「概ね児童 40 人ごとに放課後児童支援員を２人以上配置した」とあるが、以前から話しているように 60 人から 80 人の大規模学童が実際ある中で、こども計画に記載している「グループ分けによる保育を実施する」については、どういった考えなのか伺いたい。

〇保育こども園課長
　総合計画の目標値に関して、計画上は待機児童を減らしていく目標値を設定している。ただ、年々学童利用の希望が増えているという状況もあり、計画とは逆方向に進んでいるとも思っている。受入態勢は整えているものの、高学年の利用継続の希望が多いことから待機児童が増えており、今年度の当初で 50 人程度生じている待機児童のうち 30 人程度が６年生となっている。そのような中で、まず解決すべきところは低学年、特に１年生の待

機児童が出ないように、行政、また運営団体においても尽力いただいているところ。
　待機児童対策としては、新たな施設を整備しないでどう解消するかというバランスを見ながら進めており、ランチルームのタイムシェアなど、学校の余裕教室の活用について令和７年度も検討を行ったところ。ただ、小学校では、こどもの数は減っているものの、特別な配慮を必要とするこどもが増え、そういったこどもの環境を整えるという意味でも教室に余裕がなく、なかなかタイムシェア等の取組みが進まないという課題も抱えている。
　また、待機児童が出ている地域は、小学校区で言うと亀ケ崎小学校、松原小学校が一番多い。この地域は、こどもの数が減っていってない地域で、なかなか余裕教室がないということもある。そのため、新たな施設を整備しないというよりは、新たな施設を整備するということに考え方を変える判断が、行政の方では必要になってくるのではないかとも思っている。
　大規模学童保育所に関しては、多いところだと 80 人規模で受け入れていただいている。80 人規模で受け入れている場合であっても、グループ分けにより 40 人の単位にすることで運営団体への国の補助が拡充される面もあるため、運営団体と話し合いをしながら取組みを進めていければと思っている。また、一番大きなところで、人を確保することができないという課題もある。そういったところは、例えば給与面の拡充への支援なども必要なのかなというふうに思っている。

〇梅津満希子委員
　これからも相談させていただきながら一緒に進めたいと思うのでよろしくお願いする。

〇白畑真由美会長
　学童の待機児童は、全国的な問題であり、酒田市だけの課題ではないと思うので、全国的な動向を見ながら検討を進めていただきたい。

〇長澤信樹委員
　実施状況の詳細 No.3 に記載の「保育所、認定こども園から小学校への円滑な接続を図ります」について、先日も幼保小指導者研修会を開催していただいた。本園からも年長児の担任が参加し、小学校の先生から素敵な意見を聴くことができたということで架け橋プログラムへの期待感を話していたところ。一方、７月末に庄内教育事務所主催で、最上・庄内地区の小学校や園の先生が参加する幼児教育研究協議会が開催されたが、酒田市からは小学校の先生の参加がほとんどなかった。幼保小の連携についての課題を話し合う場もあったが、小学校の先生が不在では充実したものにならないと思う。１学期中の開催ということもあったと思うので、庄内教育事務所とも連携していただき、開催日程を調整したり、先生方の積極的な参加を市内の小学校に働きかけたりして頂きたい。
　「幼保小の架け橋プログラム」の推進は、文部科学省でも非常に重要視していると聞いている。こどもたちの育ちは０歳からの積み重ねであるため、こどもたちの育ちが円滑に繋がるよう、保育こども園課と学校教育課で連携して進めていただくとともに、担任の先生方の情報交換のほか、小学校の校長先生方からもぜひ協力いただき、架け橋プログラム

を推進していただきたい。現場としても小学校と相互に理解を深め、小学校教育に円滑に繋げていきたいと思う。

〇学校教育課　課長補佐
　幼児教育研究協議会への小学校からの参加が少なかったということで申し訳ない。改めて保育こども園課とも連携して周知等徹底していきたいと思う。

〇健康福祉部長
　幼保小の連携については、市議会の民生常任委員会からの政策提言書においても、意見を頂いている。教育委員会と保育こども園課の連携も含めて、架け橋プログラムの状況も見ながら、県の事業も活用しつつ、推進していくというところで確認しているところ。
　幼児教育研究協議会への参加についても、せっかくの機会であるので、県とも連携して参加を促していきたい。

〇白畑真由美会長
　幼保小の連携についてということで、小学校長会からお越しいただいている海藤副会長からもご意見を伺いたい。

〇海藤副会長
　園から小学校への接続はとても大切なことと考えている。研修の日程的なことに関していえば、暑さ対策で夏休みが後ろ倒しとなっており、７月いっぱいは１学期となっている。実際８月になってから開催された接続に関する研修会では、本校の１年生担任職員が参加していたため、日程的なところを配慮いただくと参加しやすくなるのではないかと思う。その８月の研修会では、接続に関して教育課程を変更している先進校の事例を学んだようだが、先進の事例を広めていくことはいいことだと思うので、校長会のほうでも情報を共有していきたいと思う。

〇白畑真由美会長
　ほかに質問、意見等はないか。ないようであれば次に進ませていただく。（２）乳児等通園支援事業の認可・確認及び利用定員の設定について、事務局から説明をお願いする。

〇保育こども園課長
　（資料２に沿って説明）

〇白畑真由美会長
　乳児等通園支援事業の認可・確認及び利用定員の設定について説明があった。
　意見、質問などがあればお聞きしたいと思う。

〇佐藤多紀子委員

利用実績についてもご報告いただいたが、酒田市として当初の想定と比べてどのように感じているか伺いたい。

〇保育こども園課長
すでに一時預かりという制度がある中で、誰でも通園制度がどこまで浸透するのかという思いもあったため、これほど利用していただけるとは思っていなかったという気持ちが感覚としてはある。利用ケースとしては、慣らし保育的に利用するケースや、里帰り出産で帰ってきた際に利用するというケースもあったと聞いている。利用実績として月に 10 時間利用したという方もいたようなので、需要に対しては応えられているのかなと理解している。

〇佐藤多紀子委員
にこっと広場を訪れた母親の方 20 人程度に、誰でも通園制度の認知度を確認したところ、あまり高くはなかった。一方、制度を利用している方が、園選びのために活用するととても良いと他の方にお話ししていたので、そういった活用法もある制度なのだと理解している。

〇白畑真由美会長
７月末の実績として、認定児童数に変更はあるか。

〇保育こども園課長
７月末時点の速報値として、認定児童数に変更はなく 15 名のままだが、新たに登録しそうな方が１、２名いると聞いている。

〇白畑真由美会長
ほかに質問、意見等はないか。ないようであれば、次に（３）その他として、委員の皆さまから、この場で協議したいことなどがあれば発言をお願いする。

（発言なし）

〇白畑真由美会長
以上で議事を終了する。

～　５．その他　～

〇こども未来課 門脇課長補佐
（事務連絡）
皆さまから、ほかに何かないか。

（発言なし）

～　閉会　～

〇こども未来課 門脇課長補佐

以上をもって、令和８年度第１回子ども・子育て会議を閉会する。